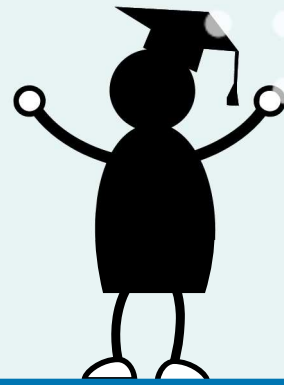


Interview #05

*2024年3月インタビュー

2024年3月所属：工学研究科 生命分子工学専攻
(名古屋大学融合フロンティアフェロー)
2024年4月所属：大手製薬会社



工学研究科の先輩

これまでやってきた研究の概要を教えてください

新規人工核酸を用いた、核酸医薬の開発をしていました。ひたすら細胞実験をやるようなウェットな研究で、医薬品のシーズ開発のようなものなので、相当時間がかかりました。

この春からはどういう仕事をする予定ですか？

裁量権は本社にしかないので、詳しくは4月に発表になるようです。ただ、現場の上司になるであろう人と会話した雰囲気からすると、今までの研究と同じようなことを担当できるかもしれません。業界最大手企業だと、自分の研究と関係ない業務に就くことも多いと思いますが、もしかしたらそういう意味では最大手というわけではない会社の規模感が私にはちょうど良いのかもしれません。

就活の流れや、キャリアに関する考え方は？

フェローシップに申込みする段階で、アカデミアと企業の「どちらでもやっていけるかな」と考えていました。ただ、アカデミアの募集よりも企業へのエントリーの方が時期が早いので、「この企業であれば研究してみたい」と思える製薬会社に絞って就職活動をしました。上から目線のように恐縮ですが、企業への就活でご縁がなければアカデミアに行こうと思っていました。ちなみに、企業就職についても「将来にわたってここで働こう」と決めているわけではなく、自分のキャリアステップについては柔軟に考えています。

キャリア形成にあたって活用したこと、在学中に経験してよかったことを教えてください。

一番役に立ったのはD1で参加した「企業と博士人材の交流会」です。就活を始める時期・企業が欲しがっている人材・自分がアピールすべき点などなど、本来は就活をしないと分からないようなポイントを、D1の時点で知ることができました。その他、セミナーや学生企画にも積極的に参加しました。すごく正直に言うと、最初は「ポイント取得」の側面もあったのですが、結果的にチームワーク・企画力・発信力など、すべてが経験値になったと思います。

就職活動で評価されたであろうと思うことはありますか？

とにかく研究能力を重要視され、そこを評価されたと感じています。一方で、セミナーや学生企画に取り組んだ経験などは、博士就活では“直接的には”評価されていないように感じました。しかし、直接的でなくともまわりまわって就職活動ではプラスに働いたと思います。学部生であれば様々な経験をしていることそのものがプラス評価になるのかもしれませんが、博士の就活においては、とにかく研究力や、研究に対する取り組み方を見られていると思います。他分野の人にわかりやすくプレゼンする能力や企画力など、セミナーや学生企画を通じて培った力が、シンプルな研究能力に付随して、“総合的な”研究能力として発揮され評価されたと感じています。

後輩たちにエールをお願いします。

私はやるべきことを逆算してスケジューリングするのは得意な方で、D3が研究の山場だというのは分かっていたので、D1・D2の段階で積極的にポイント獲得するために動いていました。もっと言うと、修士の頃から「博士課程は体力勝負になる」と分かっていたので、朝から激しめの運動をし、冷水を浴びたり、食事管理も行ったりと、周りからは変な目で見られながらもメンタルや体調の管理には修士の頃から早め早めに人一倍対策をしていました。そのおかげか、忙しいながらもメンタルや体調を壊すことなく博士課程を修了することができました。後輩たちへ伝えたいこととしては、「いろんなことを考えて、そのいろんなことに一生懸命取り組むと良い」ということです。“一生懸命”に取り組むことには、研究のみではなく、セミナーなどの活動に取り組むことや、自身のメンタルや体調管理も含んでいます。研究能力やアイデア勝負な世界だからこそ、ただ研究をするだけでは勝てません。研究で画期的なアイデアを生み出すために、あるいは就活で評価されるような総合的な研究能力を持つ人間になるために、研究に関係ない部分でも“実験”ととらえてやってみてください。「これって意味あるかな？」と感じるようなことも、結果的に研究効率やスキルアップに繋がります。私も未だ自分で実験をしている最中です。